捕獲等事業評価シート

（イノシシ）

富山県生活環境文化部自然保護課

STEP１　予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■　事業概要

事業実施地域	朝日町区域、黒部市区域、富山市区域、高岡市区域、砺波市区域、南砺市区域、氷見市区域、小矢部市区域
事業主体	富山県生活環境文化部自然保護課
事業実施期間	令和７年５月 18 日～令和８年３月７日
捕獲手法	くくりわな、かこいわな、巻き狩り
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	40,509 千円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■　事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 500 頭	くくりわな：210 頭 かこいわな：　73 頭 巻き狩り：　　33 頭 計 316 頭	捕獲目標の達成率は63%であった。目標が達成できなかった理由として、捕獲効率を上げるための、技術的課題、捕獲体制などの課題について再点検が必要である。
捕獲作業量	くくりわな：46,500 台日 かこいわな：　1,395 台日 巻き狩り：　　20 回	くくりわな：42,218 台日 かこいわな：　1,649 台日 巻き狩り：　　60 回	くくりわなの作業量が少なかったものの、巻き狩りの回数を増やして対応し、ほぼ計画どおりの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな 0.48 頭/100 台日 かこいわな 2.7 頭/100 台日 巻き狩り 0.089 頭/人日 ※前年度事業の実績	くくりわな 0.50 頭/100 台日 かこいわな 4.42 頭/100 台日 巻き狩り 0.104 頭/人日	わなの捕獲効率が前年度から増加したものの、巻き狩りの捕獲効率は増加した。 更なる捕獲技術効率の向上が必要である。
事業に要した人員数	チーム員数　計 154 人 ※前年度事業の実績	チーム員数　計 154 人 ※専門チーム 150 人 認定事業者　４人	認定事業者への委託により前年度と同数を確保した。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	計画どおり事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画に記載したとおり、チーム毎に指定の場所で埋設、自治体の焼却施設での焼却または自家消費	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	計画どおり事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・非鉛製銃弾を使用 ・クマ等の痕跡が見られた場合はわなを移設し、錯誤捕獲を防止	・非鉛製銃弾を使用 ・クマ等の痕跡が見られた場合はわなを移設し、錯誤捕獲を防止	計画どおり事業は遂行された。

捕獲個体の属性	・オス 145 頭、メス 154 頭 ・成獣 177 頭、幼獣 122 頭 ※前年度事業の実績	・オス 156 頭、メス 158 頭 ・不明　2 頭 ・成獣 194 頭、幼獣 122 頭	前年度よりも変化はほとんどない。

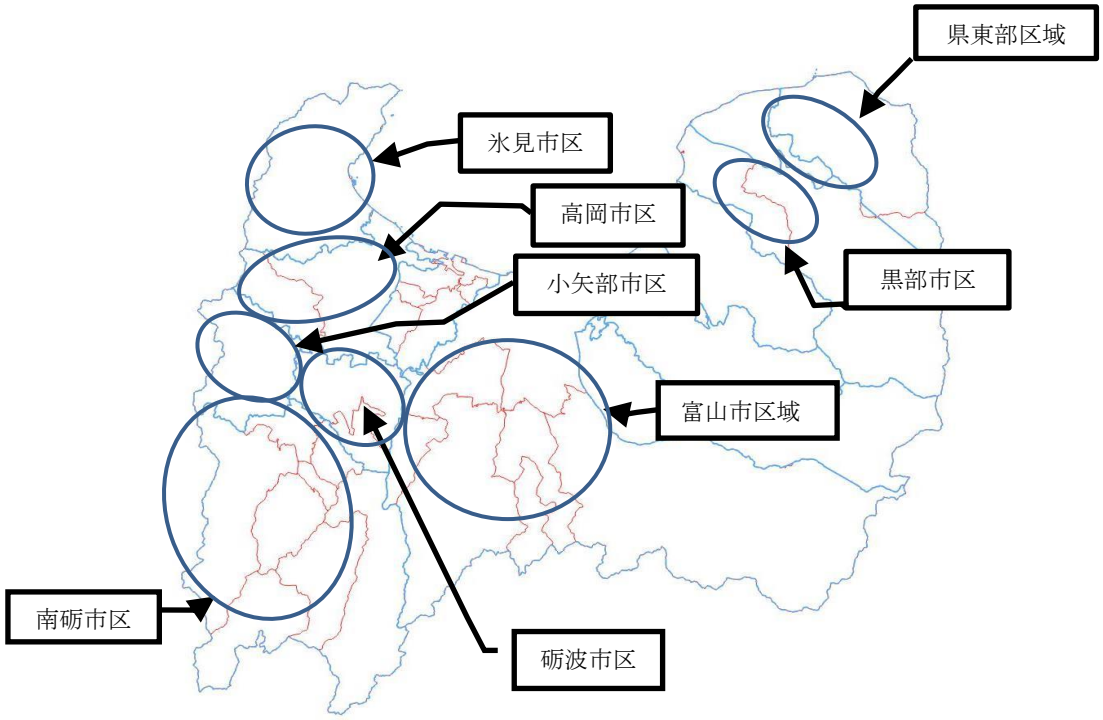


図１　事業実施地域

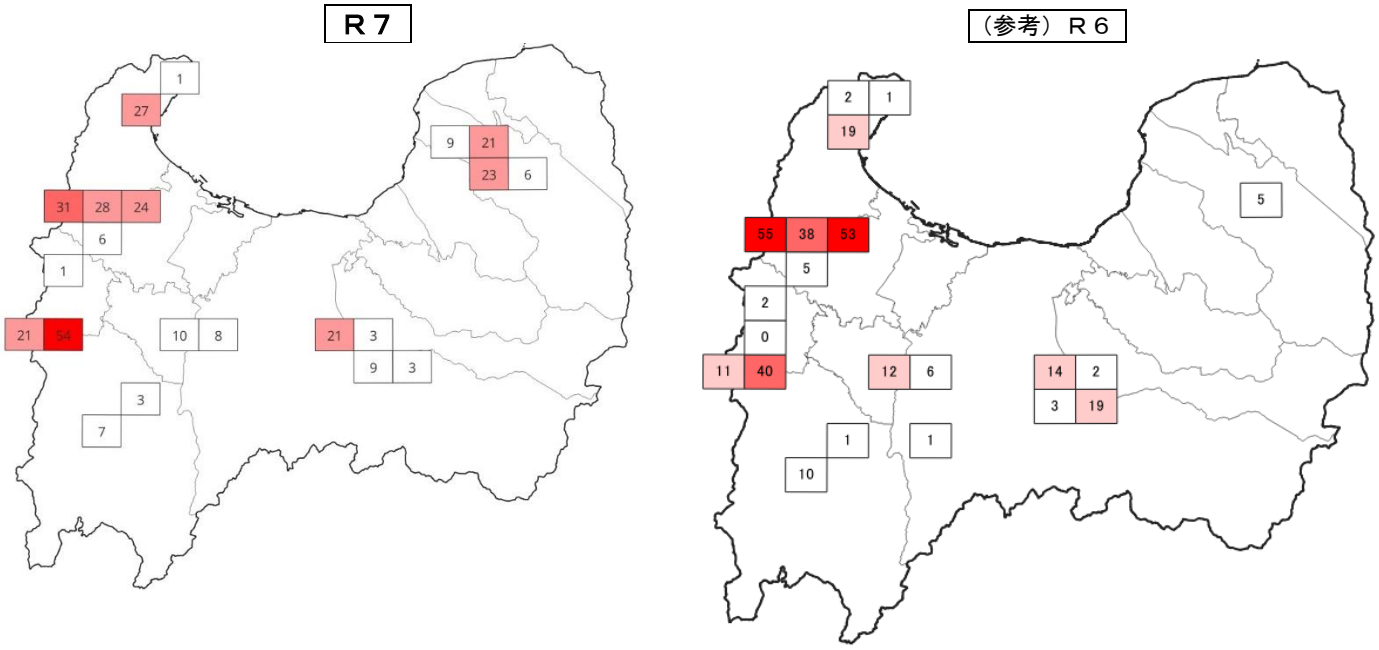


図２　イノシシの捕獲数及び捕獲地点（５㎞メッシュ）【わな＋銃】

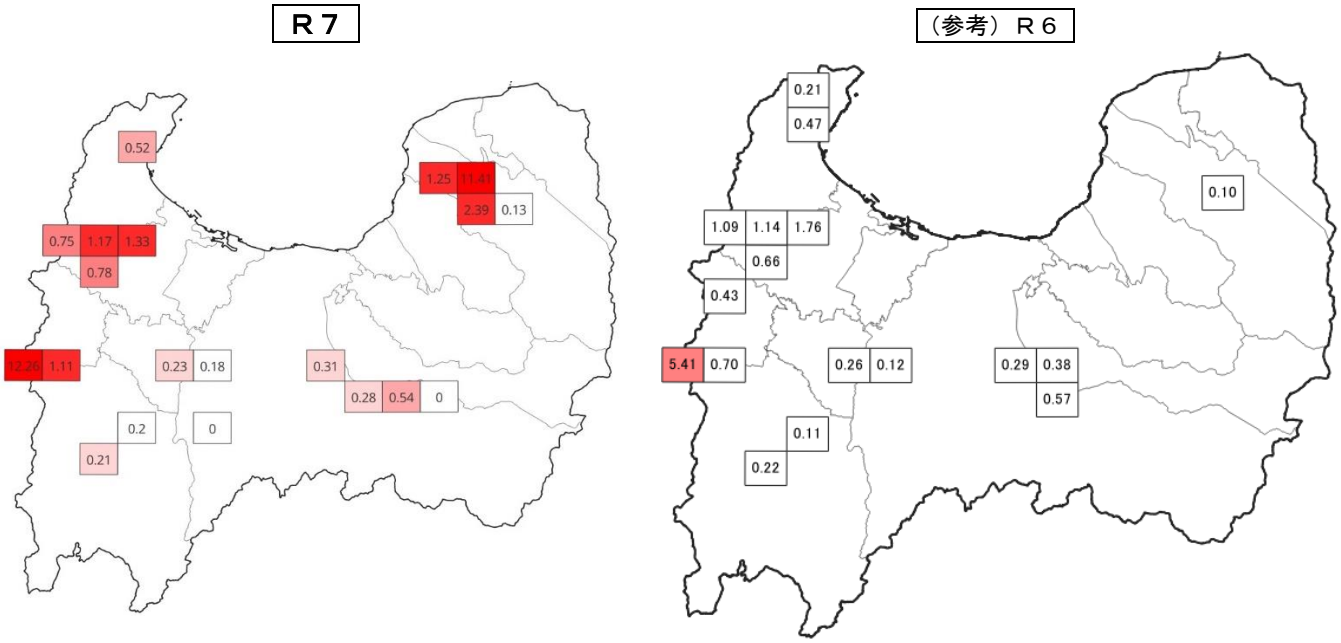


図３　イノシシの CPUE※（わな、５㎞メッシュ）
（※わな 100 台日当たりの捕獲数）

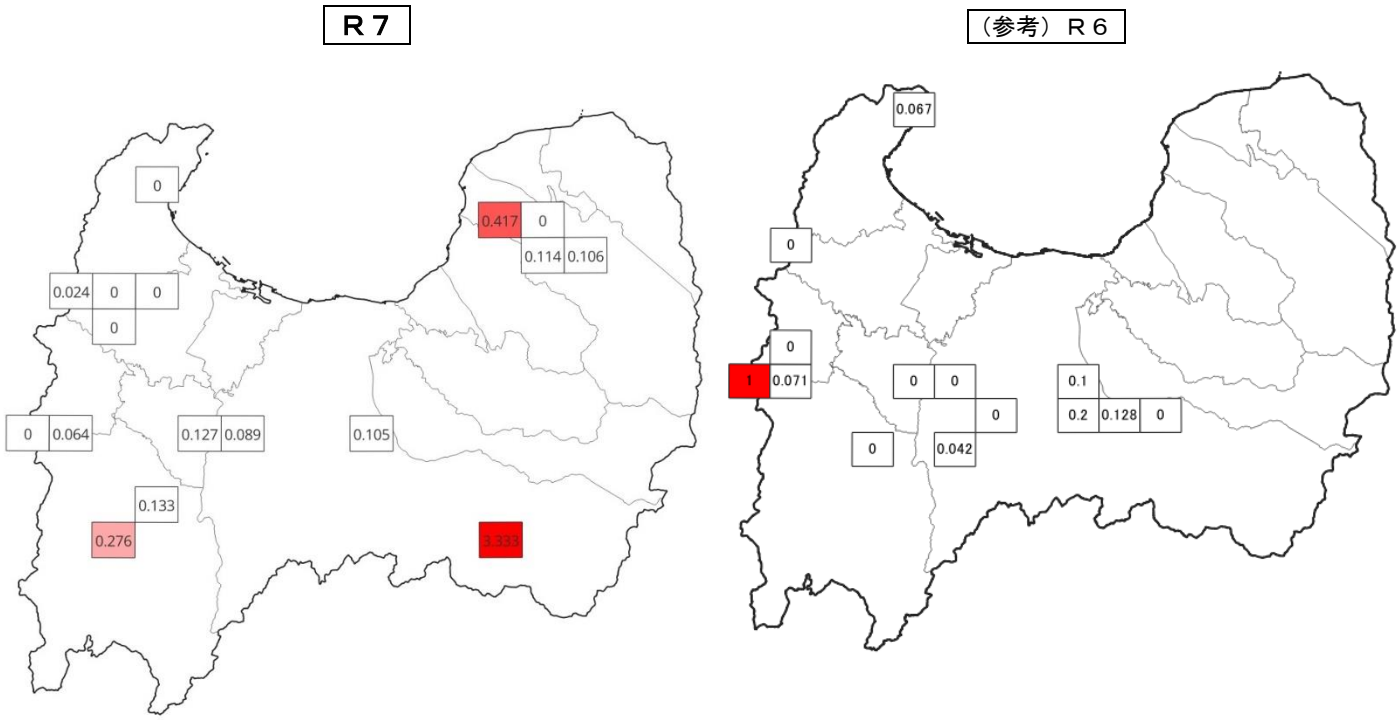


図４　イノシシの CPUE※（銃、５㎞メッシュ）
（※出猟人日当たりの捕獲数）

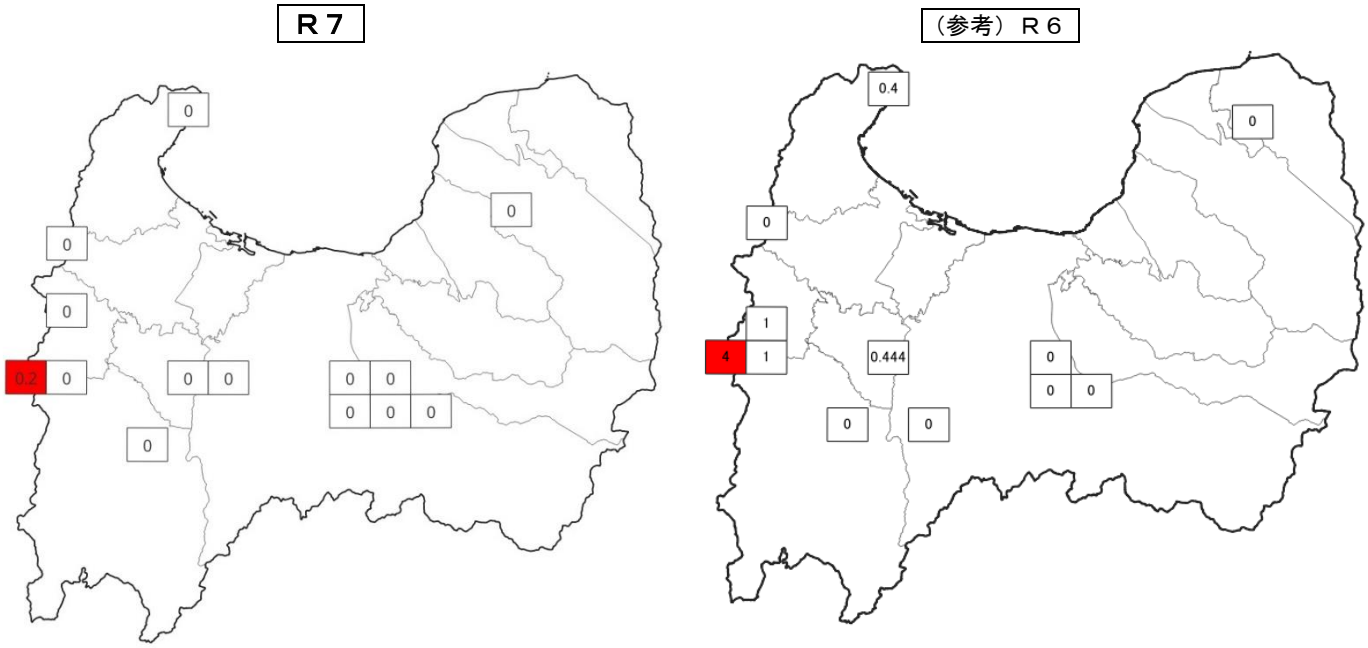


図５　イノシシの SPUE※（５㎞メッシュ）
（※出猟人日当たりの目撃数）

表１　イノシシの月別・チーム別の捕獲数など

		計	大山		八尾		福光		城端		宇奈月		高岡		福岡		砺波		氷見		小矢部		認定事業者		計	
			R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6
捕獲数	4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	5月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	1	0			4	2
	6月	24	6	1	0	1	0	1	2	1	0	0	1	3	6	10	2	3	2	0	6	4			25	24
	7月	29	1	2	2	1	11	0	1	0	1	0	8	4	7	5	1	1	7	6	17	10			56	29
	8月	64	0	4	4	1	6	0	3	1	0	1	4	17	6	19	1	5	3	6	16	10	20		63	64
	9月	64	3	3	1	1	0	5	1	7	4	1	5	19	13	16	4	1	5	6	5	5	18		59	64
	10月	67	2	5	1	2	2	4	3	2	1	2	11	17	19	22	1	1	9	3	5	9	8		62	67
	11月	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	7	13	0	1	0	0	2	0	5		14	19
	12月	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2		5	1
	1月	12	14	11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			14	12
	2月	16	7	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	4			13	16
	3月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0			1	1
	計	299	36	38	8	7	19	10	10	11	6	5	29	64	60	87	10	12	28	22	57	43	53		316	299
猟具別捕獲数	くくりわな	232	11	15	8	6	－	－	10	11	4	5	16	41	60	83	9	12	27	21	52	38	13		210	232
	囲いわな	37	－	0	－	－	19	10	－	－	2	0	13	23	0	4	0	0	0	0	－	0	39		73	37
	銃	30	25	23	0	1	－	－	0	0	0	－	0	－	0	0	1	0	1	1	5	5	1		33	30
作業量※1	くくりわな	40922	4,170	3,199	4,768	4,928	－	－	4,440	4,470	4,110	4,260	3,240	3,271	5,730	5,665	3,100	5,548	5,070	3,990	6,150	5,591	1,440		42,218	40,922
	囲いわな	1233	－	127	－	－	156	157	－	－	148	145	284	163	191	187	151	176	119	111	－	167	600		1,649	1,233
	銃	376	195	183	67	55	－	－	9	10	4	－	11	－	9	33	33	22	17	15	38	58	2		385	376
捕獲効率CPUE※2	くくりわな	0.57	0.26	0.47	0.17	0.12	－	－	0.23	0.25	0.10	0.12	0.49	1.25	1.05	1.47	0.29	0.22	0.53	0.53	0.85	0.68	0.90		0.50	0.57
	囲いわな	3.00	－	0.00	－	－	12.18	6.37	－	－	1.35	0.00	4.58	14.11	0.00	2.14	0.00	0.00	0.00	0.00	－	0.00	6.50		4.43	3.00
	銃	0.08	0.13	0.13	0.00	0.02	－	－	0.00	0.00	0.00	－	0.00	－	0.00	0.00	0.03	0.00	0.06	0.07	0.13	0.09	0.50		0.09	0.08

※1　単位　わな:台日、銃:人日　　※2　単位　わな:頭/100台日、銃:頭/人日

STEP２　捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■　事業実施地域

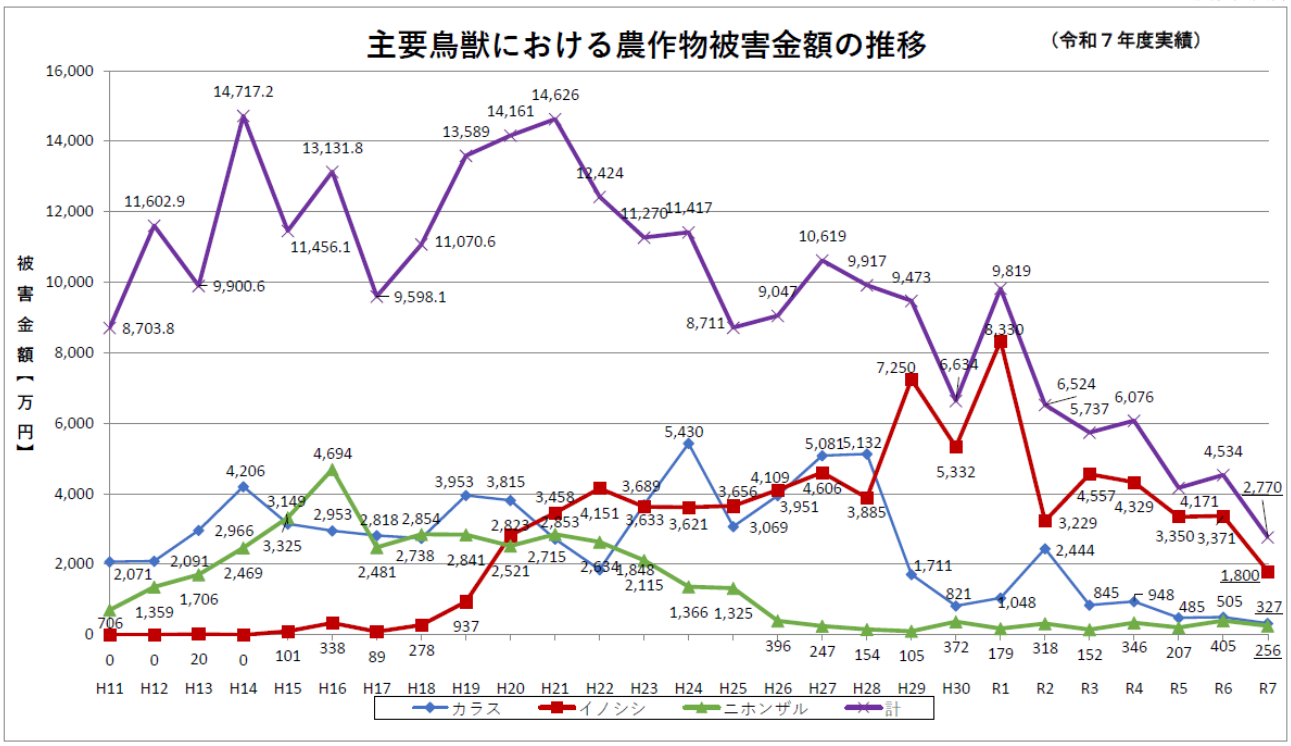
朝日区域、黒部市区域、富山市区域、高岡市区域、砺波市区域、南砺市区域、氷見市区域、小矢部市区域

■　出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	―
事業実施後もしくは事業終盤・後半	―
評価	―

■　被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	富山県でのイノシシによる農作物被害金額 令和６年度　3,371 万円
事業実施後もしくは事業終盤・後半	富山県でのイノシシによる農作物被害金額 令和７年度　1,800 万円
評価	農作物被害の減少は見られるので、~~が、単年度での評価は難しいため、~~今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を測定する。



STEP３　評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■　捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP１・２の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：管理計画で設定している捕獲目標である 500 頭には達しなかった。
	改善点：豚熱の影響等も見定めながら、新たに認定事業者の契約による、捕獲数の目標達成を目指す。
【実施期間】	評価：計画どおりの期間で実施した。
	改善点：－
【実施位置】	評価：昨年度、捕獲専門チームの減少に伴い未実施であった黒部地区等において認定認定事業者により実施しおおむね計画どおりの位置で実施した。
	改善点：富山県が新たに認定した認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施できた。
【捕獲手法】	評価：計画どおりの捕獲手法で実施した。
	改善点：－
【捕獲コスト】	評価：前年度と比較して捕獲数が減少したため、１頭あたりの捕獲コストは増加した。
	改善点：－
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：昨年度実施できなかった一部地域において、認定事業者による捕獲が実施でき、おおむね計画どおりの体制で実施した。
	改善点：今回初めて実施した認定鳥獣捕獲等事業者の捕獲効率が良かったことから、次年度の事業の期間延長を検討し、捕獲実績向上を図る。
【個体処分】	評価：計画どおり実施した（埋設、自治体の焼却施設での焼却、自家消費）。
	改善点：－
【環境配慮】	評価：計画どおり実施した（非鉛製銃弾の使用、クマの錯誤捕獲防止のためのわな移設など）。
	改善点：－
【安全管理】	評価：専門チームごとに安全管理教育等を実施。
	改善点：―
3. その他の事項に関する評価及び改善点 ①かこいわなの配置 かこいわなについて、従来から基本的に各捕獲専門チームの活動地域に１基ずつ配置する体制としていたが、地域によって捕獲効率に差が生じており、捕獲効率が低い地域については、誘引方法等が効果的でない可能性があった。 改善点として、令和７年度より、各チームに１基ずつ配置する体制を見直し、かこいわなの捕獲効率が高いチームには複数基を配置する。また、かこいわなの捕獲効率が低いチームについて、かこいわなを使用せず、くくりわなの基数を増やしてきたところである。 ②くくりわなの設置方法 くくりわなの設置について、根付けのワイヤーなどが見えていたり、またぎ棒を多く仕掛けることなど不自然な設置になってしまっているケースが多く見られたため、鳥獣プロデータバンクに登録されている捕獲コーディネーターを講師として、くくりわなの捕獲技術向上のための研修を実施したことによる改善した。	

4. 全体評価

捕獲目標数には達しなかったものの、捕獲数は前年度から減少傾向にあった。また、新たに認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施することができ、実施範囲や実施期間を拡大することで、捕獲コストの低減も期待できる。さらに、その他の項目についても概ね計画どおり実施できたことから、総合的に評価すると、本事業の目的は概ね達成できたものと判断される。

次年度事業については、わなの配置等を見直すことで、捕獲目標数の達成を目指す。また、捕獲専門チーム員の減少により捕獲が困難となった地域については、認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施し、県全体の捕獲体制を維持するとともに、個体数の増加が懸念される地域を新たな捕獲場所として拡大していくこととする。

■　特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	令和７年度の捕獲目標数　7,500 頭 （有害捕獲及び狩猟を含む。）
寄与状況の評価	有害捕獲及び狩猟を含めた令和７年度の全ての捕獲実績は 4,927 頭であり、目標の 66%にとどまり、達成できなかった。 また、そのうち本事業の捕獲目標は 550 頭であり、実績は 316 頭だったことから、こちらも目標の 57%であり達成できなかった。 令和２年度以降は、豚熱等の影響による生息数が減少したと考えられ、捕獲数についてもそれまでの半分程度となり、目標を達成できない状況が続いている。ただし、令和２年度以降の捕獲数は増加傾向となっている。 捕獲専門チームに属する 154 名の多くは各地域で有害捕獲も実施しており、捕獲専門チームで習得した捕獲技術は有害捕獲としての捕獲をする際にも活用され、一定の寄与はあると考えられる。